



筆者尾上俊雄氏。本大会はもちろん、WOC2005でのナショナルコントローラーなど国内外の国際大会での技術面での要職を務める。

地域選手権大会の理念

2008年7月25日～30日、韓国・ソウルにおいて第1回アジア選手権大会が開催された。

このアジア選手権大会はIOFの新しい方針に則って地域オリエンテリング選手権 (Regional Orienteering Championships, ROC) として位置づけられるものである。IOFが定める地域は、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、北米、南米、オセアニアの6地域であるが、その狙いは地域における競技オリエンテリングの向上と普及・発展にある。

ヨーロッパ、北米、オセアニアではこれまでも地域選手権大会が行われていたが、アジアでの実現を目指して村越前IOF理事らの奔走もあり、2006年の香港APOCの時に、韓国においてAPOCに合わせて開催することが決まった。

国際標準規格大会をアジアで

韓国ではこの種の国際大会の運営経験はほとんどなく、また、時間的にも猶予がない中で、この大会を開催することに対する韓国の決断には相当なものがあったと思う。オリエンティアならではの「新しいことへのチャレンジ」、それが活力になったのであろう。

アジア選手権では、IOFの諸規則が適用され、IOF標準の競技が要求される。また、新たにアジア選手権に関する規

則がこの4月に制定された。競技種目は、世界選手権に準じてスプリント、ロング/ミドルディスタンスおよびリレーからなるが、個人競技では各連盟からの参加人数に制限はない。これも現在のアジアの実態を考慮してのことであろう。

大きかった日本からの支援

現在、IOFには準加盟を含めてアジアからは14連盟^{注)}が加盟しているが、競技オリエンティアの実態を考えれば、今回の大会の7連盟(エントリーは8連盟)の参加はまずまずである。とくに中国、香港からの若者の参加は将来の発展を期待させてくれる。その一端は男子リレーにおける中国の優勝に見ることができた。

今回の大会では、コース設定、ITシステム、OCADなど、事前の講習を含めて日本の全面的な支援のもとに行われた。地図については海外マッパーの協力により調査されたが、必ずしも十分とは言えず、地図の仕上げ・調製は日本の手によった。このように日本の支援を受けながらも、大きなトラブルもなく初の国際大会を成功裏に終えたことは韓国にとっては大きな力になったはずだ。今後の同国でのオリエンテリングの発展に繋がるだろう。

2009年7月には台湾・高雄でワールドゲームズ大会が予定されており、

2010年の次回アジア選手権の日本開催が決まっている。アジア選手権はこれまでのアジア太平洋選手権大会(APOC)に取って代わることになったが、これからはアジアの時代である。日本は主導的な立場でアジアの発展に努めるとともに、若いオリエンティアにとっては世界選手権へのステップとして活用して欲しい。将来的には、アジア選手権に合わせて、ジュニア選手権やマスターズ選手権の開催など一大イベントとなることを期待したい。

(尾上俊雄)

注) China (CHN), Hong Kong (HKG), Indonesia (INA), India (IND), Japan (JPN), Kazakhstan (KAZ), Kyrgyzstan (KGZ), Korea (KOR), Malaysia (MAS), Mongolia (MGL), Pakistan (PAK), DPR Korea (PRK), Thailand (THA), Chinese Taipei (TPE) アンダーラインは今回の参加国



アジアの時代の幕開けに対して、日本はどのようなリーダーシップをとっていけるだろうか？